

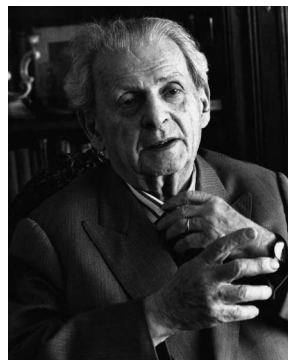


レヴィナスの時間論

『時間と他者』を読む

内田樹 [著]

4月25日発売



エマニュエル・レヴィナスの戦後の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもって鳴る同書を徹底的に精読・注解することを通して、深い苦しみ
の時間を生き抜いたユダヤ人の〈希望の時間論〉が浮かび上がってくる。『福音と世界』の好評連載を徹底的に改稿して単行本化。『レヴィナスと愛の現象学』、『他者と死者』に続く著者の「レヴィナス三部作」ついに完結。思想と格闘する真の醍醐味を味わわせてくれる書。

◆四六判・430頁・定価2860円

詩人は聖書をどのように表現したか

柴崎聰 [著]

16人の近現代詩人たちを読む

4月25日発売

キリスト教が日本文学の担い手たちに与えた影響は測りしれない。では、聖書は詩にどのような影響を及ぼし、詩人は聖書をどのように表現したのか。信仰者であり優れた実作者である著者が透徹した読みを示す。

▼本書で取り上げる詩人たち 〓 島崎藤村 / 三木露風 / 山村暮鳥 / 八木重吉 / 石原吉郎 / 安西均 / 島朝夫 / 高野喜久雄 / 片瀬博子 / 塔和子 / 澤村光博 / 高橋喜久晴 / 野村英夫 / 島崎光正 / 阪田寛夫 / 森田進

◆四六判・286頁・定価2310円

関連書

柴崎聰 著 詩の喜び 死の悲しみ

◆四六判・224頁・定価2090円

柴崎聰 著 文学の比喩 聖書の比喩

◆四六判・200頁・定価2090円

● 2 月刊行

アーバンソウルズ

黒人青年、宗教、ヒップホップ・カルチャー ◆ B6 変型・定価 2640 円

オサジェフォ・ウフル・セイクウ著／山下壮起訳

差別、貧困、警察暴力に包囲された黒人青年たちの窮境から発現したヒップホップ。その霊性を証言し、新たな解放神学を告げる。



● 2 月刊行

中世キリスト教の七つの時

片山寛著

◆ A5 判・定価 2750 円

神学と哲学、大学と修道院、疫病と社会。これらの関係の中から神についての真理を探究し、膨大な思索を紡ぎ出してきた中世キリスト教。教理と社会の相互関係史を探究した 14 編。



● 1 月刊行

クィア神学の挑戦

クィア、フェミニズム、キリスト教

工藤万里江著

◆ A5 判・定価 4730 円

三人の女性神学者の思想を精査し、フェミニズム(神学)とクィア(神学)に共通する課題と断絶の双方を明らかにする。「クィア神学」の多様な内実、その課題と可能性を展望する。類書に乏しいクィア神学に関する本格的な研究書。



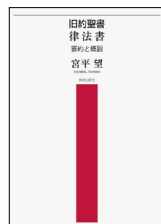
● 11 月刊行

旧約聖書 律法書 要約と概説

宮平望著

◆ A5 判・定価 2200 円

新しい旧約入門シリーズ刊行開始！(全 4 冊) 章ごとにヘブライ語原典に基づいて要約し、新約聖書の視点からメッセージを概説する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、聖書の学びが楽しくなる。「律法書」は、創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記の 5 書を扱う。



雨宮栄一著

反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

〔仮題〕

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲンシタボに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。著名な元帥の甥の孫であり、広大な領地を所有するユンカーだった伯が、反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。 四六判・予価2700円

戸田聡著

古代末期・東方キリスト教論集

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究や、「エジプト人マカリオス伝」や最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳など、他に著者が企図するウエーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる論考を含む27編を収録。 A5判・予価5900円

ジャン・カルヴァン著／森川甫・吉田隆 訳

共観福音書註解 下

マタイマルコルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。 A5判・予価89500円

世のいのちのために

正教のサクラメントと信仰

A・シユメーマン著／松島雄一 訳

◆定価2420円

四つの愛〔新訳〕

C・S・ルイス著／佐柳文男 訳

◆定価2420円

● 3月に出た本と雑誌

死と命のメタファ

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答
浅野淳博著

◆A5判・定価2970円

ビリー・グラハムと

「神の下の国家」アメリカ

福音伝道者の政治性

相川裕亮著

◆四六判・定価2750円

ヤバイ神

不都合な記事による旧約聖書入門
トーマス・レーマー著・白田浩一 訳

◆四六判・定価2420円

脱原発の必然性と

エネルギー転換の可能性

地震国日本の現実とドイツの先例から考える

竹本修三・木村護郎クリストフ著

◆四六判・定価1650円

福音と世界

◆定価660円

4月号 警察は必要か

寄稿者・高祖岩三郎、平田周、大日方純夫、小島伸之

堅田香緒里、吉田寮広報室／絹川久子、関田寛雄／

好評連載 山口陽一、山崎ランサム和彦、宇井志緒利、

田崎英明、村澤真保呂、有住航

●『地獄堂霊界通信』をご存じでしょうか？ てつし・リョーチン・椎名のワルガキ三人組が謎の薬屋・地獄堂のおやじに導かれ、術具や仏の力を借りて物の怪と戦っていくジュブナイル・ホラー小説です。二〇一四年に逝去された作家の香月日輪さんによる人気シリーズであり、わたしも幼少期に夢中になって読んだ記憶があります。が、じつはこの『地獄堂霊界通信』には、一九九六年に公開された実写映画が存在しているのです。当時、小学校低学年だったわたしは母親とこれを見に行き、衝撃を受けました。なにせ、いわゆる「ツッパリ」そのものの主人公たちには、原作の面影など微塵もありません。なぜかつねに巻き舌気味の会話、何の脈絡もなくはじまる別の小学生グループとの抗争、最終的に死神と拳で殴り合う展開、一度聞いたら二度と忘れられないエンディング曲「超こわい！」……あまりにもクレイジーでバイオレンスな世界観にわたしはただただ困惑し、母親はちよつと怒っていた記憶があります。ですが、この何もかもめちやくちやな映画体験が、「映画は勢いがすべて」といういまのわたしの好みにつながっているのかもしれない。と、最近観直して気づいたのは、これは『ビー・バップ・ハイスクール』ろくで

なしBLUES』で知られる那須博之監督作品だったということ。道理で、と納得する一方、原作ファンとしてはやはり微妙に納得のいかない気持ちもあり、しかしそれでもわたしにとって愛すべき映画とはこういうものなのです。(堀)

●「ジャケ買い」(装丁に惹かれて買う)という言葉がありますが、書名に惹かれる「タイトル買い」もあります。出版社が書名の決定に腐心する所以です。新刊『ヤバイ神』が刊行早々好調なのは書名に興味を惹かれた方も多いからでしょう。原題は「暗い神——旧約聖書における残酷性、セックス、暴力」でした。これはこれで魅力的で、直訳でもよかったかもしませんが、内容の半分しか表現していない憾みがありました。本書は、旧約の神はひどいという結論で終わるのでなく、むしろ、ひどく見えるけれどいったいなぜか、それは本当か、というその先の義論をしているからです。そこで、若い人たちが「すごいいい」を表現するために普通に使う「ヤバイ」の両義性を活用したいと考えました。訳者の白田さんが著者にこの日本語の若者言葉を説明すると即座に大賛成してくださったことも、書名決定を後押ししました。むしろ書名だけでなく内容もヤバイですので、ぜひ手にとってご覧ください。(小林)

福音と世界

2022年 5

特集：ユートピア再訪

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8760円

- ユートピアの精神と歴史の現実
——エルンスト・フロッホ再読—— 池田浩士
 - 心靈主義から田園都市へ——「真の改革」に至る道とは何か—— 吉村正和
 - ナチスのユートピアの光と影
——社会主義、自然保護、ドイツ国民の大ゲルマン帝国—— 曾田長人
 - 入植型植民地主義とユートピア
——菅川豊彦と「満洲国」—— 役重善洋
 - ユートピアを語る文学の中
——ジェンダーとセクシュアリティ—— 高岡尚子
 - 「パンとババ」のユートピア——「人への投資」の政治をこえて—— 伊吹美貴子
- 本誌創刊七〇年に寄せて……大嶋果織、戒能信生
【新連載】
教会におけるマイクログレクション
……O.J.サンダース、A.イエバー/訳・解説||真下弥生
【好評連載あり】
- ◆「日本的キリスト教」を読む 4 ……山口陽一
 - ◆新約釈義 ルカ福音書 5 ……山崎ランサム和彦
 - ◆間隙を思考する 非同時代性のために 14 ……田崎英明
 - ◆古代イスラエル文学史序説 15 ……勝村弘也
 - ◆霊性のエゴジリ あるはマリアリア 16 村澤真保呂
 - ◆福音のフラグメント 16 ……有住航